

News Letter

大阪大学全学教育推進機構
ニュースレター

2018.10.1 ♦ Vol. 4



大阪大学 OSAKA UNIVERSITY
全学教育推進機構

Center for Education in Liberal Arts and Sciences
発行：大阪大学全学教育推進機構広報委員会
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-16
E-mail : public-relations@celas.osaka-u.ac.jp

平成31年度、共通教育はどう変わるの？ 少人数ゼミ 学問への扉（マチカネゼミ）はじまります



理念 平成31年度から、新たな少人数セミナー「学問への扉」、通称「マチカネゼミ」が始まります。「学問への扉」は、大阪大学の学部に入学した学生たちが「学問の面白さ」に気づくための科目です。現役の研究者との対話や異分野の学生との議論を通して、知識の受け手ではなく、自らが学問の担い手であるという気概をもった学生たちを育てていくことが目的です。



内容 各セミナーの担当教員は、各々の専門分野に応じて課題・文献など一つの内容をテーマとして設定します。選んだ内容に応じていくつかのタイプが考えられます。例えば、課題を設定する「問題解決型」、特定の文献を用いる「文献講読型」などがあります（図1）。また、「学問への扉」に想定される要素として、学術的な文章の読み書き、情報収集、プレゼンテーションなど、学問の営みを理解するためには欠かせない「アカデミック・スキルズ」（表1）があげられます。



履修方法 「学問への扉」は、すべての学部学生について1年次の必修科目となります。各学部・学科等の時間割のうち、二つの曜日・時限が「学問への扉」枠として確保されています。それぞれの曜日・時限は、複数の学部の学生が履修することが可能で、異分野の学生と共に学ぶことができます。新入生は、自分の学部・学科等に割り当てられた二つの曜日・時限に開講されるクラスから、シラバス・紹介動画（p. 2 参照）・履修ガイダンスを参考に、第5希望まで選択します。一部ですが、すべての学部学生が選択できるクラスもあります。希望者多数の場合には、抽選で受講クラスを決定します。

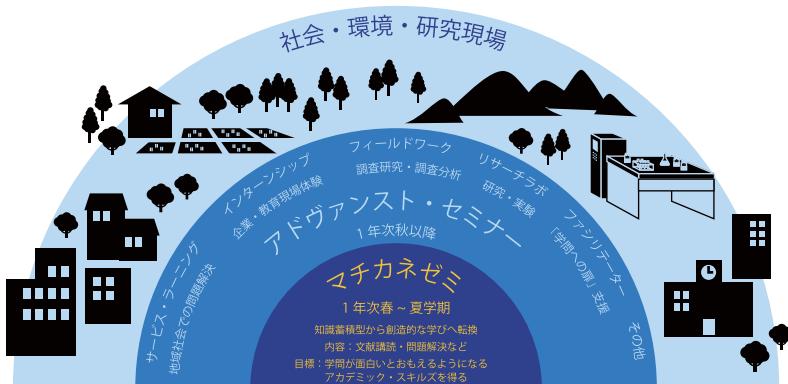
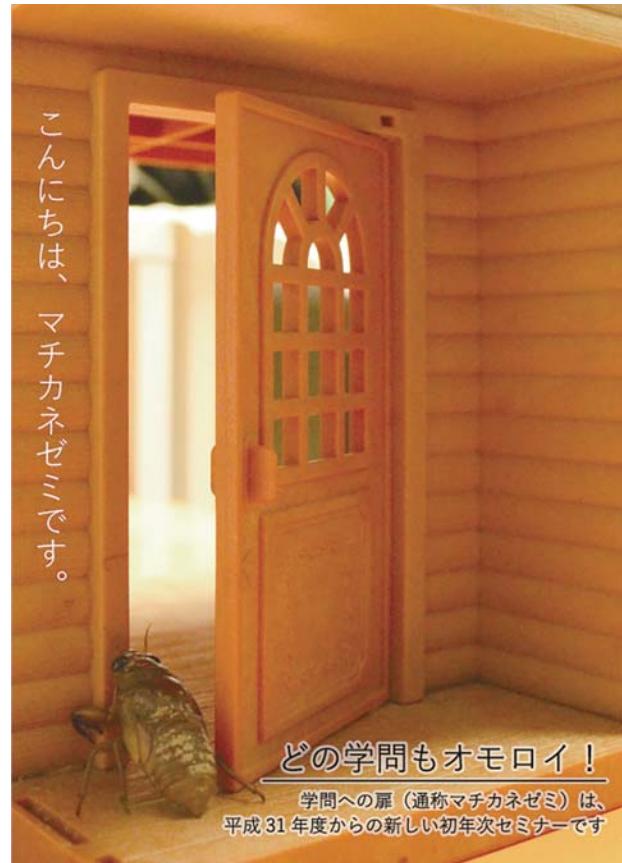


図1 マチカネゼミとアドヴァansto・セミナー



	ざっくり言うと	獲得能力	たとえば	関連キーワード
インプット	資料収集（集める）	情報収集力	情報検索データ収集	レビュー
	読解（読む）	読解力要約力	文献講読データ整理要約	リテラシー
アナリシス	調査・分析（確かめる）	思考力批判力判断力	調査・実験データ分析	クリエイカル・シンキング
	議論（話し合う）	行動力分析力対話力	ディスカッションディベート	コミュニケーション
アウトプット	論述（書く）		レポート	ライティング
	発表（話す）	論述力構成力表現力	ポスター発表口頭発表	プレゼンテーション
	創造（創る）		作品創作	パフォーマンスデザインイノベーションクリエーション

表1 アカデミック・スキルズの例

参考事例を機構HPで公開します→→→ <http://osku.jp/j0306>



全学教育推進機構

担当教員

Point!!

11月11日（日）13:30~17:00
「学問への扉」開設記念シンポジウム

初年次教育の再構築**—新しい形の高大接続と大学初年次教育を考える—**

場所：大阪大学基礎工学部国際棟

内容：初年次対象の少人数ゼミを実施されている他大学の先生と、高校での教育改革を推進してごられた先生方をお招きし、高校と大学の接続、そして大学における教育改革がどのようなものであるべきかを議論します。

FD 11月13日（火）16:30~18:00 豊中キャンパス
11月14日（水）16:30~18:00 吹田キャンパス

各授業内容を紹介する30秒程度の動画を各担当教員にご用意いただき、全学教育推進機構HPで公開する予定です。現在、動画の作成を支援する専用のアプリケーションを開発中です。動画作成が難しい場合に備え、PDFファイルでの提出もできるよう検討中です。

11月11日（日）～16日（金）
「学問への扉」開設記念イベントWEEK
シンポジウム、FD等を開催

2月～3月
「学問への扉」授業紹介動画の公開
開講教室の調整

4月初旬
新入生向けガイダンス

マチカネゼミ Start!!**?? そのギモン、お答えします !!****Q. 今までの基礎セミナーはどうなるの？**

A. 内容によって、「学問への扉」または「アドヴァンスト・セミナー」（1年次秋学期以降。2年次以降を対象として春～夏学期に開講することも可能）へ移行となります。それぞれの科目的内容は、p.1の図1をご覧ください。

Q. 教養教育科目はどう変わるの？

A. 基礎教養科目、現代教養科目、先端教養科目、国際教養科目（国際教養2を除く）、専門基礎教育科目の文系科目の一部を基盤教養教育科目として統一し、科目区分および科目名の見直しを行いました。新カリキュラムでは、内容による科目区分（人文科学、社会科学、自然科学、総合）を導入し、学生から見て科目区分と内容の対応がわかりやすくなりました。なお、いずれの科目も文理問わず受講可能となります。ある程度の前提知識を必要とする内容の場合は、シラバスで「高校○○学の知識を前提とする」など指定することが可能です。

Q. 専門基礎教育科目は？

A. 科目内容の全面的見直しを行い、理系科目については学部学科間で科目名を統一しました。現在の学びに必要な基礎的科目について各学部と議論を重ね、必修科目を見直しました。文系科目については、科目の特性に応じ、基盤教養教育科目の一部を専門教育科目に指定できるよう柔軟性を高めました。

Q. マチカネゼミの担当になったのですが、吹田・箕面に所在する部局等に所属しているため豊中キャンパスにどのような教室があるかがわかりません。グループワークや実験等に適した教室はありますか？

A. マチカネゼミの開講時間については、全学教育推進機構のステューデント・コモンズのセミナー室をはじめ、複数の部屋を確保しています。詳しくはこのニュースレターのp.4をご覧ください。

イベント報告

ブックコレクション 5周年記念イベント 「ソーシャル×読書 ～つながる時代の本とおつきあい～」

6月29日（金）19時より、京阪なにわ橋駅の「アートエリアB1」にてトークイベント「ソーシャル×読書～つながる時代の本とおつきあい」を開催しました。2014年より教員と学生が書評を競う企画「ブックコレクション～教員vs学生団体【書評対決】」を実施してきましたが、その5周年記念イベントとして企画したものです。近年、ビブリオバトルの流行や書評ブログの広がりに見られるように、読書体験の共有や、読書を通じたコミュニケーションが重視されるようになってきました。本イベントでは、ゲストに漫画家の蛇蔵さんや「阪大ビブリオバトル」代表の今坂さん（文学部2回生）を迎えて、「SNSの普及によって本の読み方はどう変わったか」「書き手は読者の反応をどう受け止めているのか」など、ソーシャルな時代の読書の可能性とその魅力について話し合いました。



教育学習支援部 ～コースデザインワークショップ～

7月14日～15日にHALC教室にて「コースデザインワークショップ」が開催されました。本ワークショップで参加者は、学生の学習をもっと促すために、授業のデザイン方法と基本的な授業方法を学びます。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の作業を、現在使用しているシラバスの修正を通して体験し、各自15分間のミニ授業を設計・実施することによって、必要とされる能力を身につけます。本ワークショップは年に2回開催のペースで実施しており、今回で14回目を迎えます。学内外から通算で約100名の教員が受講し、実際の授業で活用して頂いています。今回も参加者からは「他教員の取組に関与することによって、授業設計における”目標”の重要さ、重大さを激しく実感しました。」「本当に素晴らしい内容でした。目からウロコ状態で、たくさん教えていただきました。」等々、多くの好評を頂きました。皆さんもご自身の教育を見直す機会としてご活用ください。

参考URL：

<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>



留学生見学旅行

6月2日（土）に京都府宇治市への留学生見学旅行が実施されました。道中のバスの中では参加留学生の自己紹介など打ち解けた雰囲気の中、現地に到着しました。まずは、宇治茶道場「匠の館」でお抹茶の点て方を体験しました。初めて扱う茶筅に最初は戦慄していましたが、インストラクターのお手本を参考に、細かい泡の美味しいお抹茶を楽しむことができました。

その後は小グループに分かれ、現地ガイドの案内で世界遺産「宇治上神社」や「平等院鳳凰堂」を見学しました。平安時代の絢爛豪華な文化がそのまま今の時代に伝えられる美しい姿に、皆感動していました。宇治ならではの茶そばのメニューも加わった御膳の昼食をいただきたり、平等院表参道を自由散策したり、宇治川観光遊覧船に乗船したりと、盛りだくさんの思い出に残る旅行となりました。



授業に役立つ書籍

最近は、大学の授業でもアクティブラーニングが求められる時代になってきました。しかし、阪大生からは、大学らしい深い知識を教えてくれる講義形式の授業に対するニーズがあることも事実です。本書は、大学で講義をする際に必要となる基本的な知識や技法についてわかりやすく説明されている書籍です。

講義法は、「学生が理解し記憶することを目的として、教員が必要に応じて視聴覚メディアを使いながら口頭で知識を伝達する教育技法」と定義されます。こうした授業を行うために、教員は知識定着の仕組み、モチベーションの仕組み、講義の設計方法や技法を学ぶ必要があります。本書には配付物の実例など豊富な資料もあり、すぐに授業に活用できます。是非、お手にとって御覧ください。

教育学習支援部 佐藤 浩章 准教授



『講義法』

佐藤浩章編

玉川大学出版部 2018



平成31年度から始まる少人数セミナー「学問への扉」(通称マチカネゼミ)。何かおもしろい授業をしたいけれど、ピッタリな部屋がない……。そんなあなたに、コモンズのお部屋を紹介します。

全ての部屋で、A0サイズのホワイトボード複数台が使用できます(部屋によっては事前に移動する必要があります)。プロジェクトは、サイエンス・スタジオBを除くすべての部屋に設置されています。

その他の備品等は機構HP(<http://www.celas.osaka-u.ac.jp/facilities/commons/>)へ。

なお、希望が重複した場合、ご希望の教室が確保できない場合もあります。

また、「学問への扉」では、この他の教室等をお使いいただく可能性もあります。



	机のかたち	オススメ用途(例)	教室名	席数
授業での利用	台形	グループワーク主体の授業	セミナー室A セミナー室C カルチエ・ミュルチラボ	42席 36席 30席
	3人掛け	プレゼンテーションや動画視聴など「発表者と聴衆」形式が主となる授業	セミナー室B マルチラボ・ミニ	108席(分割可) 28席
	1人掛け	個人作業とグループワークを両方行う授業	セミナー室D	36席
	4人掛け 実験机	実験 大判紙を広げての作業	サイエンス・ラボA マルチラボ	40席 100席
スポット利用	4人掛け	公開報告会	サイエンス・スタジオA	80席
	円形机 ちゃぶ台(畳スペース)	座席にとらわれないイベント 畳スペースを舞台に見立てての伝統芸能・演劇等の発表 (要事前相談)	サイエンス・スタジオB	椅子60席 畳(約18畳)

Pickup!

教えて先生!

スポーツ・健康教育部門

七五三木 聰 教授

Q

目の奥の網膜には、光を受け取り電気信号(神経信号)に変換する視細胞がシート状に並んでいますが、一部、視細胞が欠落している部分があります。神経信号を脳へ伝達する線維や血管などが束ねられて眼球から出入りしている場所(視神經乳頭: ししんけいにゅうとう)で、この部位に対応する視野はマリオネットの暗点と呼ばれ、見ることができません。では、なぜ私たちは見えていないことを自覚できないのでしょうか。

答え・詳しい解説は
こちらから→→→

<http://osku.jp/z0434>



編集
後記

猛暑で植物がみんな枯れ、哀しみに打ちひしがれながら原稿を書きました。(K 沢)

腰痛と肩関節痛に打ちひしがれながら編集しました。
(K 澤)

ニュースレターへのご意見・ご感想・ご要望はこちらまで
public-relations@celas.osaka-u.ac.jp

